

文学館だより

令和 3 年 4 月 1 日
若山牧水記念文学館
TEL 0982 - 68 - 9511
文 責 日 高

昨年、新型コロナウイルス感染症に大きく振り回された一年でした。不安な日々の中、手づくりマスクの普及、リモートワーク、学校行事等々、全国各地で様々な発想の転換が図られました。私ども日向若山牧水顕彰会ならびに若山牧水記念文学館も、厳しい現状には変わりありません。しかし、これまでと変わらず牧水顕彰に努め、牧水先生の人となりや偉業をお伝えしていきたいと思っております。今年度も変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

令和3年度事業・企画展のお知らせ

状況により変更もあります

目 程	主 な 内 容
4.11(日) ~ 6.27(日)	三浦家寄贈資料公開展 繁と敏夫 ー受け継がれた二人の絆 第1期 プロローグ 敏夫の遺したもの 寄贈資料の中から注目すべき資料を抽出し、遺墨や執筆原稿、文学仲間からの書簡をとおして、三浦敏夫の人物像に迫ります。
9.5(日) ~ 12.5(日)	第2期 繁と敏夫 牧水と敏夫にスポットを当て、遺墨や書簡等をとおして16年の歳月で深められた二人の絆に迫ります。
令和4年 3.13(日) ~ 5.29(日)	第3期 敏夫と喜志子 喜志子やその家族にスポットを当て、牧水没後も変わらず続く絆に迫ります。
	 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>391点に及ぶ資料が三浦家から寄贈され、今年度通年の主要企画展です。若山牧水全集に収められていない手紙の数々、遺墨からも二人の強き絆を知る大変貴重な資料ばかりです。この企画は、本来、昨年度の企画でした。1年待ってようやく公開の運びとなりました。お待たせいたしました。牧水ファンのみならず、興味をもたれたみなさま、お近くのみならず、感染症対策を万全にされ、ご来館ください。</p> <p>4月11日(日)は、10時より開会セレモニーを行い、その後、一般公開を予定しています。</p> <p>なお、今後、まだまだ日程変更等があるかもしれません。その際はどうぞご理解いただきますようお願いいたします。</p> </div>
4月~	<p>第11回青の國若山牧水短歌大会作品募集開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一般の部 自由題、題詠『海』……………全国どなたでも応募できます。 ○小学生の部、中学生の部、高校生の部…県内の児童生徒が応募できます。 ○選 者 伊藤一彦 一般の部(自由題) 大口玲子 一般の部(題詠「海」)、小・中・高校生の部 ○応募締切 8月13日(金) 郵送の場合は、当日消印有効です。 詳細は、追ってお知らせいたします。

第25回若山牧水賞 谷岡亜紀さん来訪 3月17日(水)

苦しみと感謝が多分まだ足りない 酔い覚め今朝も「ひどいどしゃぶり」

第5歌集『ひどいどしゃぶり』で、第25回若山牧水賞を受賞された歌人谷岡亜紀さんが生家、文学館を来訪されました。2月に予定されていた行事も延期され、後れること3月16日に授賞式、翌17日に延岡学園高校尚学館高等部学校訪問、そして牧水生家ならびに文学館への来訪となりました。

到着と同時に、生家をご見学いただき、文学館へ。まず、歌集と色紙にサインをいただきました。歴代受賞者のサイン入り歌集、自筆による自選五首、色紙にまたおひとり加わりました。全国でご活躍の若山牧水賞受賞歌人がずらりと並ぶ场景は圧巻です。

その後、牧水先生の展示室もご覧いただき、先人をじっくり目に焼きつけていらっしゃる印象でした。

ギャラリーに展示している牧水母校作品展にも足を留められました。何と、早稲田短歌会の一人が、谷岡さんが教えた学生だったようです。偶然のできごとには一瞬にして盛り上がり、思わずシャッターチャンスを狙う我々スタッフでした。



左 宮崎市在住歌人大口玲子さんと
右 一首をしたための谷岡さん



ご自身の展示に足が留まります。
来年度は歴代受賞者の列に並びます。



旅を愛した牧水とご自身を重ねて
いらっしゃるのかもしれない。



早稲田短歌会の教え子の
作品を見つけました。

旅のひとこま・・・ 生家ノートより

故郷は静岡県沼津市です。念願の牧水の地を訪ねることができて感無量!!
”けふもまた心の鉦を打ち鳴らし”は我が心の歌です。

16才誕生日 令和参年弥生五日

春雨の告ぐる春先まだ咲かぬ桜の花を待つこのごろかな
谷川を眺め奏でるこの音色春のいぶきと響く音かな

牧水さんと廉太郎さん 8月24日生まれ。そこで私も8月24日生まれ。牧水さんの
うまれたこのあたりの風景は今も一緒でしょうか？それとも変わったでしょうか？尾
鈴山にも登ってきましたよ！そして私は太田。喜志子さんと同じ名字。何か因縁があ
りますでしょうか？ね？

宮崎西高出身です。家族5人で来ました。僕もここで生まれたかった。

牧水先生の一首

今年度は、折に触れて出会う一首を紹介していこうと思います

かくれたる徳を行ひ顕れぬ人は深山の桜なりけり
かくれたる とくをおこない あらわれぬひとは みやまの さくらなりけり

延岡中学の校友会雑誌第1号(明治34年2月)に掲載され、牧水先生が最初に詠んだ歌とされる一首です。中学2年、16才の発表です。山崎庚午太郎(かごたろう)校長は特にこの歌を激賞したという記録が残っているほどです。

牧水研究第24号(令和3年2月発行)「牧水の学び」の中に、この歌を論じた一説があります。一部抜粋して紹介します。『「かくれたる徳を行ひ顕れぬ人は」が牧水自身の行動を思わせ、「深山の桜」の景物が比喩として機能する歌となっている。』

わずか15、6歳で、この感性をもち、ましてや世に出す最初の歌がこの歌とは、改めて牧水先生の偉大さを思い、お人柄に惹かれます。